

動物実験に関する現況調査票

東京理科大学

2021 年 8 月

I. 動物実験に関する組織

機関長	学長 松本 洋一郎			
事務担当者	管財部 環境安全管理課 野田環境安全管理室 主任 菊地 利一			
同 連絡先	TEL. 04-7124-1501 内線 2185	FAX. 04-7122-1715	e-mail bio@admin.tus.ac.jp	
動物実験委員会	職 名		氏 名	カテゴリー*
委員長	生命医科学研究所	教授	後飯塚 僚	②
委 員	理学部第一部教養学科	准教授	北林 保(2020 年 9 月 30 日まで)	③
委 員	理学部第一部化学科	教授	下仲 基之(2020 年 10 月 1 日から)	①
委 員	薬学部薬学科	教授	市原 学	①
委 員	薬学部薬学科	教授	斎藤 顕宜(2020 年 9 月 30 日まで)	①
委 員	薬学部生命創薬科学科	准教授	早田 匡芳(2020 年 10 月 1 日から)	①
委 員	理工学部教養	教授	鈴木 智順	③
委 員	理工学部応用生物科学科	教授	古市 貞一(2020 年 9 月 30 日まで)	①
委 員	理工学部応用生物科学科	准教授	中村 由和(2020 年 10 月 1 日から)	①
委 員	基礎工学部生物工学科	教授	西山 千春(2020 年 9 月 30 日まで)	①
委 員	基礎工学部生物工学科	教授	瀬木 恵里(2020 年 10 月 1 日から)	①
委 員	生命医科学研究所	講師	小川 修平	①
委 員	有限会社リジョイス 取締役社長		笠井 一弘	②
委 員	国立研究開発法人理化学研究所 バイオリソース研究センター 特別嘱託研究員		池 郁生	①

委員の数に応じて、表の行を増やしてください。

動物実験委員会のカテゴリー欄*には基本指針で定められた以下の委員構成の番号を記入して下さい。該当がない場合には空欄にしておいてください。

- ① 動物実験等に関して優れた識見を有する者
- ② 実験動物に関して優れた識見を有する者
- ③ その他、学識経験を有する者

II. 機関における動物実験の概要

1. 動物実験を行う主たる研究分野

- | | |
|--|---|
| ☒ 医歯薬学分野 | ☐ 畜産・獣医学分野 |
| ☒ 生物科学分野 | ☒ 理工学分野 |
| ☐ その他 () | |

2. 年度ごとに使用・飼養した実験動物の種類と概数

動物種	2020 年度		2019 年度		2018 年度		2017 年度		2016 年度	
	使用数	飼養数	使用数	飼養数	使用数	飼養数	使用数	飼養数	使用数	飼養数
ラット	1,012	102	919	57	824	120	1,515	100	1,398	130
マウス	50,805	12,956	53,887	13,053	48,407	11,759	56,627	10,291	55,439	10,693
モルモット	133	3	270	10	144	34	278	34	232	12
ハムスター	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2
ウサギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2021 年 3 月 31 日 現在)

実施の規模を把握するための資料ですので、使用数、飼養数ともに概数で構いません。

飼養数は、特定の日（ 年 月 日 現在）で記入ください。

集計困難であれば、未集計として下さい。

動物種の数に応じて、表の行を増やしてください。

3. 年度ごとの承認された動物実験計画数

動物実験計画数	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度	2016 年度
	113 件	125 件	131 件	133 件	130 件

4. 年度ごとの動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度	2016 年度
	597 人	620 人	653 人	644 人	531 人

5. 実験動物飼養保管施設(施設)の現況

施設の総数： 4 箇所	施設の総延べ床面積**： ☐ 300 m ² 未満 ☒ 300 m ² 以上
-------------	--

** いずれかにチェックを入れてください。

施設の名称	管理者の職・氏名	実験動物管理者の職・氏名（関連資格・経験年数）	動物種	最大飼養頭数（概数）
薬学部動物舎	教授 市原 学 (2020 年 9 月 30 日まで)	教授 市原 学 (関連資格：なし) (経験年数：32 年) (2020 年 9 月 30 日まで)	マウス・ラット	6,000
			モルモット	120
	准教授 早田 匡芳 (2020 年 10 月 1 日から)	准教授 早田 匡芳 (関連資格：なし)	ハムスター	30

		(経験年数：16 年) (2020 年 10 月 1 日から)	ウサギ	30
野田共同 動物飼育施設	教授 古市 貞一 (2020 年 9 月 30 日まで) 准教授 中村 由和 (2020 年 10 月 1 日から)	助教 佐野 良威 (関連資格：なし) (経験年数：20 年) (2020 年 9 月 30 日まで) 准教授 前澤 創 (関連資格：なし) (経験年数：6 年) (2020 年 10 月 1 日から)	マウス	5,455
			ラット	142
			モルモット	24
			ハムスター	24
			ウサギ	24
生命医科学研究 所動物実験施設	教授 後飯塚 僚	講師 小川 修平 (関連資格：なし) (経験年数：25 年)	マウス	15,000
			ラット	20
葛飾キャンパス 動物実験施設	教授 西山 千春 (2020 年 9 月 30 日まで) 教授 瀬木 恵里 (2020 年 10 月 1 日から)	助教 八代 拓也 (関連資格：なし) (経験年数：15 年) (2020 年 9 月 30 日まで) 教授 瀬木 恵里 (関連資格：なし) (経験年数：26 年) (2020 年 10 月 1 日から)	マウス	1,155
			ラット	70

数に応じて、表の行を増やしてください。

施設の所在地

所在地	施設の名称
野田キャンパス	
千葉県野田市山崎 2641	薬学部動物舎
〃	野田共同動物飼育施設
千葉県野田市山崎 2669	生命医科学研究所動物実験施設
葛飾キャンパス	
東京都葛飾区新宿 6-3-1	葛飾キャンパス動物実験施設

数に応じて、表の行を増やしてください。

飼養保管施設のあるキャンパスの主な所在地を記入ください。

飼養保管施設は、管理者および実験動物管理者による一体化した管理体制の下で、実験動物の飼養及び保管等を行う施設であり、一般的には動物飼育室の他、器具洗浄等の管理区域、実験処置室等

を含みます。したがって、個々の動物飼育室を指すものではありませんが、全ての動物飼育室は、実験動物飼養保管施設に所属していなければなりません。一体化した管理体制による実験動物飼養保管施設であれば、同一敷地内の異なる場所にある動物飼育室を含むこともあり得ます。なお、哺乳類、鳥類、爬虫類以外の動物の飼養保管施設はこの場合の数に含みません。

6. 動物実験に関する情報公開

当該情報の公開場所 (URL) : http://www.rs.kagu.tus.ac.jp/env_pres/

7. 国立大学法人動物実験施設協議会又は公私立大学実験動物施設協議会入会の有無

- ☐ 国立大学法人動物実験施設協議会会員
- ☒ 公私立大学実験動物施設協議会会員 (会員番号 : 12-020)
- ☐ その他(上記の会員ではない)

公私立大学実験動物施設協議会会員の場合は会員番号を記入ください。

8. 自己点検・評価報告書の作成に際して自己点検・評価事項チェック票での確認

URL : <http://www.m-kenshou.org/>

- ☒ 行った

9. 特記事項

(動物実験に関連した、機関の特徴や特殊事情)

本学には、II-5 に記載した薬学部動物舎、野田共同動物飼育施設、生命医科学研究所動物実験施設(以上、野田キャンパス)、及び葛飾キャンパス動物実験施設という 4 つの実験動物飼養保管施設が存在する。2013(平成 25)年度から葛飾キャンパスが開設されたことに伴い、2015(平成 27)年度に葛飾キャンパス動物実験施設を設置した。野田キャンパスにある薬学部動物舎は薬学部、野田共同動物飼育施設は理工学部・総合研究院、生命医科学研究所動物実験施設は生命医科学研究所、葛飾キャンパス動物実験施設は基礎工学部の教員・学生が主に利用する等、各施設の主たる利用者の所属する学部等が異なる。

薬学部動物舎は主に薬学部内で使用する動物 (但し RI 投与動物等は生命医科学研究所動物実験施設で使用) を飼育している。動物種もマウス、ラットの他、モルモット、ウサギの飼育も可能である。また、飼育環境としてコンベンショナルと SPF を選択でき、施設内に小規模な実験室も設けてある。

野田共同動物飼育施設はできるだけ多くの動物種の飼育を可能としている一方、生命医科学研究所動物実験施設はマウスの SPF 環境下での飼育に特化している。

動物実験施設は、施設ごとの使用規則を定め施設管理責任者 (動物実験委員会委員である) と動物実験運営委員会を置き、動物飼育等に関するものの他、動物実験の実施状況を把握し、実験

実施者に適切な指導・助言を行っている。

動物実験計画を審査する動物実験委員会は、全学統一の委員会として設置・運営されている。

また、動物実験に対する適切な体制を整える為に「動物実験の外部検証プログラム」を 2013(平成 25)年・2020(令和 2)年に受審している。